

PRESS RELEASE

2026.03.31

*当リリースは、2月24日にフォルヴィアがフランスで発表した英文リリースの抄訳です

2025年度業績

- **2025年は大幅に業績が改善**
 - **グループの主要優先課題での着実な前進**
 - **2026年度末レバレッジ比率1.5倍への確かな軌道**
- **2025年度業績は強力なキャッシュフローの創出を背景として継続的に利益率が向上しレバレッジ解消が進む**

(別段記載がない限り数値はIFRS第5号適用前のもの)

 - 売上高は報告ベースで262億ユーロ、または固定為替レート基準で270億ユーロ（前年比横ばい）
 - 営業利益率は売上高の5.6%、前年比40bps増
 - ネットキャッシュフローは9億6,200万ユーロ、前年比47%増
 - 純負債が6億ユーロ減の60億ユーロとなり調整後EBITDAに対する純負債の比率は1.7倍（2024年度末は2.0倍）
- **主にポートフォリオ刷新と合理化に関連する非現金性の特別損失を反映し、通年の純損失は21億ユーロ（IFRS第5号適用後）。**
- **ポートフォリオ焦点の絞り込みおよび財務体質の強化に向けた重要なステップとしてインテリア事業グループの計画的売却**
 - 複数当事者との事前交渉継続中
 - 売却により10億ユーロ以上の純負債削減を見込む
- **2026年の見通し：売上は軟調ながらも、収益性は向上しレバレッジ解消が1.5倍まで進む**

フォルヴィア最高経営責任者（CEO）、マーティン・フィッシャーのコメント：

「当社の 3 つの戦略的優先課題である、業績の達成、事業改革の推進、当社企業文化の活性化を徹底して実行することで、2025 年は目に見える成果を達成し、フォルヴィアの新たなフェーズの幕開けに揺るぎない基盤を確立しました。

2025 年の本業の実力からの実績の強さと質の高さは、フォルヴィアチームの卓越したコミットメントと規律ある実行への揺るぎない注力の賜です。営業利益率とキャッシュフロー創出の持続的な改善により、財務レバレッジの大幅な削減を可能にしました。

また、フォルヴィアの転換点において断固たるイニシアチブを通じて、ポートフォリオを再構成し、戦略的焦点を絞り込みました。現在事前交渉中のインテリア事業グループの売却計画は、当グループが勝者となり長期的な価値を創出できるベストなポジションにいる分野を絞り込む上で、重要なマイルストーンとなるはずで、この取引の完了時には、10億ユーロ以上の純負債の削減と、一層の財務プロフィールの強化が期待されます。

これらの戦略的措置により、2025年の決算では多額の非現金性の特別損失を計上しました。これは、明確で規律あるポートフォリオ刷新の決定を反映したものです。これらは報告ベースの純利益を押し下げる要因とはなるものの、グループの簡素化、レジリエンスの強化、持続的な価値創造というフォルヴィアの目標とは完全に合致しています。

こうした強固な基盤が整った今、本日のキャピタルマーケットデーは、当社変革における次の段階への移行を示すものです。当社は、確かな成果を実現しフォルヴィアの価値創造の次の扉を開くための明確なコミットメントを示す、新たな戦略ロードマップを発表します。」

セーフハーバー規定

インテリア事業売却計画には、財務諸表での IFRS 第 5 号会計処理の適用が義務づけられています。インテリア事業は過去に遡って「非継続事業」に分類されています。すべての 2025 年財務数値は、本書で別途言及がない限り、IFRS 第 5 号の適用前のものです。

参考までに、IFRS 第 5 条適用後の詳細な財務諸表を付録に掲載しています。

2025年度業績（10ページ以降の付録に詳細分析を記載）

● 2025年度のグループの連結売上高と営業利益

グループ（単位：百万ユーロ）	2024年度	為替差 損益	オーガニック グロス	2025年度	報告ベース の変動割合
売上高	26,974	- 797 - 3.0%	- 24 - 0.1%	26,154	- 820 - 3.0%
営業利益	1,400 5.2%			1,456 5.6%	+ 4.0% +40bps

2025年、世界の自動車生産台数は**3.9%増加**し、ライトビークル車両は9,300万台となりました（S&Pモビリティ、2026年2月時点の推計値）。中国での力強い成長（+10.2%）が、欧州と北米での減少分（それぞれ-0.8%、-1.2%）を相殺して余りある結果となりました。これらの地域的な変動から地域構成効果が悪化し、約2.5ポイントのマイナス寄与となりました。

2025年のオーガニックベースの売上高は横ばい、製品の売上高は1.5%増：

- オーガニックベースの売上高は概ね堅調（-0.1%）で、製品売上高は1.5%増加したものの、ツール類が特に好調だった2024年の水準から通常に戻り、売上高が減少したことから全額が相殺されました。
- オーガニックベースの成長は、エレクトロニクス部門の2桁成長とクリーンモビリティ部門の回復が主導しました。
- 為替の影響は、第2四半期以降に業績を圧迫し始め、主に米ドルと中国人民元が要因で、売上高に7億9,700万ユーロ（-3.0%）のマイナス寄与となりました。

2025年度の連結営業利益は、前年比40bpsの上昇で14億5,600万ユーロ、売上高の5.6%

ライティングを除くすべてのビジネスグループが、利益率の伸びに寄与しました。

前年比改善のプラス要因：

- EU-FORWARDからの具体的な早期成果とヨーロッパ外の追加的な構造改革によるコスト削減、合計1億6,500万ユーロ
- フォルヴィア・ヘラーからのシナジー効果6,300万ユーロによって、グループは2025年度末までに4億ユーロの目標を達成することが可能
- 採用凍結、出張規程の厳格化、マーケティング費用の削減など、製造および営業コストの徹底的な管理
- 生産活動パフォーマンスが継続的に改善

マイナス要因：

- 1億4,600万ユーロの研究開発費の資産計上の減少からの影響
- 6,900万ユーロの為替差損のマイナス

米国における関税率引き上げの実施からは、効果的な対策のおかげで実質的な影響はありませんでした。

● 2025 年度連結キャッシュフロー計算書

単位：百万ユーロ	2024	2025	変動割合
営業利益	1,400	1,456	56
減価償却費および償却費	1,955	2,057	102
調整後 EBITDA	3,355	3,513	158
売上高に占める割合	12.4%	13.4%	100 bps
設備投資	(973)	(701)	272
研究開発費	(1,039)	(880)	158
運転資本要件の変動（ファクタリングを含む）	619	303	(316)
構造改革費用	(208)	(252)	(43)
その他（営業関連）	(198)	(117)	81
金融費用	(564)	(525)	46
税金	(337)	(380)	(48)
ネットキャッシュフロー	655	962	307
売上高に占める割合	2.4%	3.7%	

ネットキャッシュフローは 47%増の 9 億 6,200 万ユーロとなり、以下 3 つの継続的な要因によって、その質も著しく改善：

- EBITDA の増加。売上高の 13.4%（前年比 100bps 上昇）
- 投資規律戦略やプログラムの遅延による、設備投資額の 28%削減
- イノベーションへの投資を増やす一方で、開発費を 12%削減（-2 億 4,900 万ユーロ）したことが主な要因となり、資産計上された研究開発費（R&D）が 15%減少。両者の売上高に占める割合は、2024 年の 7.5%に対し、当期は 6.0%

サプライヤーへの未払い金の減少を好調な現金の回収が上回ったことが主な要因となり、運転資本とファクタリングの変動で 3 億 300 万ユーロの純資金流入となりました。売掛金のファクタリング残高は、2024 年末時点の 13 億ユーロに対し、2025 年末時点では 12 億ユーロでした。

税金の実際の支払額が前年比で増加したのは、2023 年度にフォルヴィア・ヘラーから受け取った特別配当に関連し、2024 年度上半期に 6,800 万ユーロの源泉徴収税の還付を受けたことが主な要因です。

少数株主への配当金支払い（1 億 500 万ユーロ）、新規リース契約（1 億 7,800 万ユーロ、2024 年から 20%減）、その他項目 6,600 万ユーロ（主に為替変動）を差し引き後、**2025 年 12 月 31 日時点での純有利子負債は、2024 年 12 月 31 日時点から 6 億 1,300 万ユーロ減少し、60 億 1,000 万ユーロとなりました。**

調整後 EBITDA に対する純負債の比率は、2024 年度末時点での 2.0 倍に対し、2025 年度末時点では 1.7 倍となりました。

● IFRS 第 5 号適用前と後の主要 KPI

単位：百万ユーロ	IFRS 第 5 号適用前		IFRS 第 5 号	
	2024	2025	2024	2025
売上高	26,974	26,154	21,879	21,347
営業利益率	1,400	1,456	1,176	1,285
売上高に占める割合	5.2%	5.6%	5.4%	6.0%
ネットキャッシュフロー	655	962	352	962
売上高に占める割合	2.4%	3.7%	1.8%	4.5%*

*8 億 2,300 万ユーロ、売上高 3.9%（ファクタリングの変動を除く）

● 2025 年度連結包括利益計算書（IFRS 第 5 号）

単位：百万ユーロ	2024	2025	2025 年 IFRS 第 5 号
売上高	26,974	26,154	21,347
取得原価配分前の営業利益	1,400	1,456	1,285
売上高に占める割合	5.2%	5.6%	6.0%
取得原価の配分	-190	-181	-181
構造改革費用	-362	-478	-410
経常外営業利益・費用（のれん償却を除く）	-86	-38	-38
金融利息（純額）	-495	-457	-430
その他の金融収益・費用	-50	-138	-117
完全連結会社の税引前利益および一時的費用	229	164	109
繰延税金資産の取り崩し前法人所得税	-235		-251
シンピオ資産の減価償却前の関連会社の利益持分	-18		4
非継続事業からの当期純利益			-26
少数株主利益に帰属する連結純利益	-161		-86
一時費用前の連結純利益（グループ持分）	-185		-249
のれん償却			-920
インテリア売却計画に関する資本損失			-578
シンピオ関連の資産減価償却			-209
繰延税金資産の取り崩し			-135
一時費用合計			-1,842
連結純利益（グループ持分）	-185		-2,091

2025年の連結純利益（グループ持分）は、20億9,100万ユーロの純損失となりました。これは主に、グループ全体の抜本的なポートフォリオ刷新と合理化に伴う特別費用として約18億5,000万ユーロを計上したことによるものです。

これらの費用は主に3つのカテゴリーに分けられます。

- 主に以下に関連する償却費用9億2,000万ユーロ：
 - ライティング部門の短期の売上予測の低下と営業課題
 - エレクトロニクス部門（主にクラリオン・エレクトロニクス）の継続的なポートフォリオの合理化とより控えめな成長見通し
- IFRS第5号会計規則の適用による、インテリア事業の計画的売却に伴う約**5億7,800万ユーロの非現金性の資産売却損**の計上。完了時には、1億5,000万ユーロの税金および取引費用を計上。
- ステランティスの水素事業停止の決定を受け、その影響を全面的に反映したことによる、グループが保有するシノピオ株式（ミシュラン、ステランティス、フォルシアと共同保有）**2億900万ユーロの減損**。
- フランスとドイツにおける繰延税金資産の取り崩し**1億3,500万ユーロ**。

グループの最終的な業績に反映されたその他の要因：

- **構造改革費用**

EU-FORWARDプログラム（2025年度末までに発表された6,400人の人員削減）を迅速に展開したことで、構造改革費用が4億1,000万ユーロという高水準に上昇しました。これは2025年にピークに達し、2026年以降減少する見込みです。

- **金融利息（純額）**

金融費用（純額）は4億3,000万ユーロとなりましたが、今後は減少する見通しです。

- **法人所得税**

上述の非現金性の影響を除き、法人所得税の負担額は2億5,100万ユーロでした。

債務の償還期限構成の大幅な改善

フォルヴィアは約27億ユーロの新規負債を調達しました。また、34億ユーロの短期債務を返済し、一方で債務の償還期限構成を2027年から2032年以降へと平準化しました。

新規発行は資金調達先の分散化を反映したものです。ユーロ債市場およびSchuldschein（債務証券）市場における取引に加え、当グループ初となる米ドル債の発行により総額10億米ドルを調達したほか、中国元建てのバンクローンを調達しました。

調達した資金は、返済期限が2025年の債務の完全償還、大半の2026年債務の買い戻し、および2027年債務の大幅な削減に充当しました。その結果、グループ全体で残存借入期間は2027年から2031年、さらにそれ以降へとバランスよく分散されています。

こうした一連の資金調達の結果、債務の平均残存期間は2024年末の3.1年から2025年末には3.4年へと長期化しました。

さらに、キャッシュアップストリーム手法を活用することで、2025年末時点で総負債（グロスデット）で8億5,200万ユーロ

口減の102億8,000万ユーロ、手元現金で2億4,300万ユーロ減の42億5,700万ユーロとなりました。フォルヴィアは引き続きキャッシュアップストリームを推進し、有利子負債（グロス債務）のさらなる最適化と、それに伴う利息費用の削減を図る方針です。

2026年度の剰余金の配当

2026年2月23日に開催された取締役会で、配当方針を修正する旨を決議しました。フォルヴィアは引き続き、株主に対する長期的な資本リターンを提供に取り組んでいきます。配当金と自社株買い戻しは、レバレッジ目標を含めたグループの財務業績と財務状態に基づいて決定されます。

グループの継続的な優先課題であるレバレッジ解消を踏まえて、2026年度は配当を見送る提案をする旨を決議しました。

2025年のその他の重要事項

効率性の高い組織を通じて高い機動性とパフォーマンスを実現するための重要な施策

自動車業界は複雑で急速に変化する環境の中にあり、これまで以上の機敏さに対応力が求められています。抜本的な改革を進めるため、グループは効果的に変革をけん引する2つの戦略的プロジェクトを開始しました。

明確な損益計算書の報告構造を定めることで、現在**組織モデルの刷新**を図っています。新たな体制は各地域の製品部門を主軸としており、チーム全体でより高い責任感とエンパワーメント（権限委譲）を促進します。

SIMPLIFYプロジェクトを通じて、グループは販売費および一般管理費、また間接業務における業務手法の再構築を目指します。改善すべき領域を特定するために徹底したベンチマーク調査を実施したところ、非必須業務の廃止、生成AIによる定型業務の自動化、そして組織設計の最適化といった、重要な構造的な投入を定義するに至りました。

本プロジェクトの目標は、2028年までに基準となるコスト水準を1億1,000万ユーロ削減することであり、2025年から2028年にかけて約1億5,000万ユーロの構造改革費用を投じる予定です。

中国 OEM とエレクトロニクスが受注をけん引

フォルヴィアの受注高は、2024年が310億ユーロであったのに対し、2025年は270億ユーロとなりました。これは主に電動化ペースの減速に伴う入札の遅延を反映したのですが、一方で先行費用についてはさらなる進展が見られました。

受注高は、エレクトロニクス分野と急成長地域において堅調な勢いを維持しました。

- 受注高全体のうちエレクトロニクスが28%を占めました。これは、ヘラーのエレクトロニクス部門が寄与した結果です。
- 中国のOEMがけん引役となり、2025年の受注高全体のうちアジア市場が34%、うち中国が28%を占めました。

インテリア事業グループの計画的売却

フォルヴィアはインテリア事業グループの売却について、複数当事者と事前交渉段階にあります。

この計画的売却により、グループの高成長の技術領域への集中を加速させ、財務の柔軟性を強化することが可能となります。同時に、新たなオーナーシップのもとで、インテリア事業の長期的な発展を支援していきます。

売却完了時には、10億ユーロ以上の純負債の削減を見込んでいます。

2026年の見通し

2026年も生産環境は不安定かつ不確実な状態が続くものと予想しています。S&Pモビリティの2月推計によれば、2026年の世界の自動車生産台数はライトビークルで前年比0.2%減の9,280万台となる見通しです。これはフォルヴィアが事業を展開するすべての主要地域で減少がみられたこと（欧州：-1.8%、北米：-1.6%、中国：-1.2%）を反映しており、その結果2026年は地域構成効果の悪化から、1ポイントのマイナスが予想されます。

この環境下において、フォルヴィアは引き続き厳格なコスト管理と規律ある現金管理を実行していきます。特に、EU-FORWARDの実行および現在進行中のSIMPLIFYプログラムによる初期の効果が、さらなる追い風になるものと期待しています。

2026年のフォルヴィア業績予測*:

- 売上高は200億～210億ユーロ（固定為替レートベース）**（IFRS第5号修正再表示後、2025年は213億ユーロ）
- 営業利益率の売上高に占める割合は6.0%～6.5%（IFRS第5号修正再表示後、2025年は6.0%）
- ネットキャッシュフローの売上高に占める割合は3.0%（ファクタリングの変動を除いたIFRS第5号修正再表示後の2025年は3.9%）
- 調整後EBITDAに対する純負債の比率が2026年12月31日時点で1.5倍（IFRS第5号適用前の2025年末時点は1.7倍）

*本ガイダンスでは、年度中に生産や小売販売に重大な影響を及ぼす大きな混乱がどの主要な自動車市場にも発生しないと仮定しています。

** 2025年の平均為替レート:EUR/USD = 1.13、EUR/CNY = 8.11

- 2025年度通年の連結財務諸表は、2026年2月23日に開催された取締役会において、ミシェル・ド・ローゼンが議長を務める下、承認されました。
- 連結財務諸表に対する監査手続は完了しています。監査人は現在、無限定適正意見の発行手続を進めています。
- 本プレスリリースで用いられているすべての会計用語については、本文書末尾の「本文書中で使用されている用語の定義」で説明しています。
- 世界または各地域の自動車生産に関する数値はすべて、2026年2月付のS&Pグローバルモビリティの予測（2025年は9,300万台、2026年は9,280万台）を参照しています。

2025年の各事業グループの売上高と営業利益率

売上高

	IFRS 第 5 号		IFRS 第 5 号適用前			
	2025	2024	2025	2024	変動割合	オーガニック変動
単位：百万ユーロ						
シーティング	8,160	8,636	8,159	8,634	- 5.5%	- 3.3%
エレクトロニクス	4,567	4,190	4,566	4,189	+ 9.0%	+ 11.8%
インテリア			4,817	5,108	- 5.7%	- 1.9%
ライティング	3,625	3,879	3,625	3,879	- 6.5%	- 4.9%
クリーンモビリティ	4,010	4,154	4,010	4,153	- 3.5%	+ 1.2%
ライフサイクルソリューション	977	1,011	977	1,011	- 3.3%	+ 0.1%
その他	8	8	-	-	-	-
グループ	21,347	21,879	26,154	26,974	- 3.0%	- 0.1%

オーガニックグロースに貢献したのは、主にエレクトロニクスとクリーンモビリティでした。

- シーティングは上半期堅調に推移したものの、下半期の売上については、ヨーロッパや中国における顧客構成の悪化からマイナスの影響を受け、特にBYDの生産減速が響きました。
- エレクトロニクスは、ヨーロッパと北アメリカにおけるレーダーおよび電動パワーステアリング向けプログラムの増産、ならびに日系OEMからの旺盛な需要が寄与し、主要地域すべてで2桁成長を記録しました。
- インテリアはオーガニックベースの製品売上高で4.5%の成長を達成しました。しかし、2024年度は異例の高水準であったことを受けてツール類の売上が平準化したことから、全体的な業績が押し下げられました。
- ライティングの売上高は、北アメリカと中国における大型量産プログラムの終了に加え、ヨーロッパでの長引く市場の低迷からも、引き続きマイナスの影響を受けました。
- クリーンモビリティは、アメリカにおける2桁成長や、大手自動車メーカーからの事業買収を背景としたヨーロッパでの力強い回復が追い風となり、2025年度にはオーガニックベースでの成長に転じました。
- ライフサイクルソリューションは、商用車セグメントでの持続的な活動に支えられ、下半期には再び成長に転じました。

営業利益

単位：百万ユーロ	IFRS 第 5 号		IFRS 第 5 号適用前		
	2025	2024	2025	2024	変動割合
シーティング 売上高に占める割合	448 5.5%	421 4.9%	464 5.7%	434 5.0%	+6.9%
エレクトロニクス 売上高に占める割合	301 6.6%	221 5.3%	313 6.9%	230 5.5%	+36.1%
インテリア 売上高に占める割合			109 2.3%	109 2.1%	+0.0%
ライティング 売上高に占める割合	106 2.9%	187 4.8%	106 2.9%	187 4.8%	-43.3%
クリーンモビリティ 売上高に占める割合	358 8.9%	337 8.1%	369 9.2%	346 8.3%	+6.6%
ライフサイクルソリューション 売上高に占める割合	95 9.7%	94 9.3%	95 9.7%	94 9.3%	+ 1.0%
その他	-23	-82	-	-	-
グループ 売上高に占める割合	1,285 6.0%	1,176 5.6%	1,456 5.6%	1,400 5.2%	+4.0%

IFRS第5号の適用前には、ライティングを除くすべての事業グループが営業利益率の改善を達成していました。

- シーティングは、継続的な生産性向上策などが寄与し、70ベースポイント利益率が向上しました。
- エレクトロニクスは、ヘラー・エレクトロニクスとクラリオン・エレクトロニクスの両方での業績改善が寄与し、営業利益率は140ベースポイント改善しました。
- インテリアは、コスト削減によって、利益率が2024年から20ベースポイント上昇しました。
- ライティングの営業利益率は、販売量の低下と営業課題が足を引っ張りました。
- クリーンモビリティは、効率性の改善が続いたことを受け、3年連続で営業利益率が向上（+90ベースポイント）しました。
- ライフサイクルソリューションの利益率は、前年比40ベースポイント増となり、下半期に2桁水準へと戻りました。

2025年の各地域の売上高と営業利益率

売上高

	IFRS 第 5 号		IFRS 第 5 号適用前					
	2025	2024	2025	2024	変動割合	オーガニック変動	為替変動	市場の自動車生産台数と比較した実績
単位：百万ユーロ								
EMEA	10,116	10,092	12,498	12,607	- 0.9%	+ 0.2%	- 1.1%	+1pt
うちヨーロッパ	9,904	9,867	12,198	12,282	- 0.7%	+ 0.4%	- 1.1%	+1pt
南北アメリカ	5,126	5,249	6,809	7,152	- 4.8%	+ 0.1%	- 4.9%	+1pt
うち北米	4,604	4,707	6,004	6,339	- 5.3%	- 1.1%	- 4.2%	-
アジア	6,105	6,537	6,848	7,216	- 5.1%	- 0.8%	- 4.3%	-8pts
うち中国	4,540	5,073	5,175	5,654	- 8.5%	- 4.6%	- 3.9%	-15pts
中国を除くアジア	1,565	1,465	1,672	1,561	+ 7.1%	+ 12.9%	- 5.8%	+11pts
グループ	21,347	21,879	26,154	26,974	- 3.0%	- 0.1%	- 3.0%	-4pts

全体として売上高は中国で顧客構成が悪化したことがマイナスとなりました。

- **EMEA:** 下半期の顧客構成の悪化や、複数の一過性要因による影響はあったものの、売上高は市場の生産台数をわずかに上回りました。
- **南北アメリカ:** 北アメリカにおける売上高は、市場全体の推移と概ね一致しました。これは、クリーンモビリティおよびエレクトロニクスでの好調な勢いがインテリアおよびライティングでの低調な推移を相殺したことによるものです。
- **アジア:** グループは、日本および韓国のOEMとの取引が成功したことが追い風となり、中国を除くアジア全体で力強いアウトパフォーマンスを達成しました。中国では、BYDや理想汽車（Li Auto）の下半期における生産の減速がマイナス要因となりました。奇瑞汽車（Chery）の好調さに勢いはあったものの、その影響を部分的に相殺するにとどまっています。

営業利益

	IFRS 第 5 号		IFRS 第 5 号適用前		
	2025	2024	2025	2024	変動割合
単位：百万ユーロ					
EMEA	393	208	490	305	
売上高に占める割合	3.9%	2.1%	3.9%	2.4%	+1.6pt
南北アメリカ	278	301	281	341	
売上高に占める割合	5.4%	5.7%	4.1%	4.8%	-0.7pt
アジア	616	670	686	754	
売上高に占める割合	10.1%	10.3%	10.0%	10.4%	-0.4pt

グループ	1,285	1,179	1,456	1,400	+3.3%
売上高に占める割合	6.0%	5.4%	5.6%	5.2%	+0.4pt

営業利益率の推移は地域によって対照的な結果となりました。

- **EMEA:**主にEU-FORWARD競争力強化プログラムの規律ある実行を反映して、営業利益率は150ベースポイント上昇しました。
- **南北アメリカ:**利益率はインテリアとライティングの営業課題から影響を受け、この地域の業績の圧迫要因となりました。
- **アジア:**中国を除くアジア全域での堅調な成長と中国における規律あるコスト調整アプローチに支えられ、利益率は2桁成長を維持しました。

免責条項

本文書には、フォルヴィアの将来の見通しに関する一定の記述が含まれています。このような将来の見通しに関する記述は、傾向や目標を示すものであり、将来のフォルヴィアの業績やその他の業績指標に関する予測として解釈されるものではありません。「推定する」、「見込む」、「期待する」、「見積もる」、「計画する」、「意図する」、「目的」、「信ずる」、「予測する」、「予見する」、「恐らく」、「かもしれない」、「だろう」、「目標」、「目標値」、「ひょっとして」、「するだろう」、「するつもりである」、「はずである」、「予想する」、「続ける」、「確信する」、「自信」などの将来の見通しに関する単語、こうした単語の否定形や複数形、そして他の同等の用語で、こうした将来の見通しに関する記述を特定できる場合もあります。本文書におけるこうした記述には、財務予測、推定、およびその基礎となる仮定が含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、こうした仮定には、現在および将来の事業戦略（フォルヴィアグループへのヘラーの順調な統合を含む）に関する仮定、フォルヴィアの事業運営に関する予想および記述、そしてフォルヴィアの事業の将来の運営、方向性および成功に関するものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。フォルヴィアは、その予想が合理的な仮定に基づいているものと考えますが、こうした将来の見通しに関する記述は、既知または未知のさまざまなリスクおよび不確実性などその他の要因に左右されます。そして、こうしたことについては、フォルヴィアが制御できる範囲を超える可能性があり、その結果、実績がこうした将来の見通しに関する記述で期待されたものと著しく異なる場合があり得ることに、投資家は注意を払う必要があります。こうしたリスクおよび不確実性、ならびにその他の要因についての詳細は、フランス金融市場庁（AMF）に提出した公的書類、プレスリリース、プレゼンテーション、特に2025年3月7日にフォルヴィアがAMFに提出した、フォルヴィアの2024年ユニバーサル登録文書第2節「リスク要因とリスクマネジメント」（No.D.24-0080、www.forvia.comで入手可能）をご参照ください。フォルヴィアは、新しい情報、将来の出来事その他の結果にかかわらず、こうした将来の見通しに関する記述を法的な要求事項として公に更新し、修正する責任を負いません。ここに含まれる過去の業績に関連するいかなる情報も、将来の業績を保証するものではありません。本文書の内容は、投資の推奨としても、法律・税務・投資・会計上の助言としても解釈されるべきものではありません。本文書に含まれるヘラー関連の過去の数値は、買収過程で同社からフォルヴィアに提供されたものです。フォルヴィアの監査役はこうした過去の数値の監査は行っておらず、またこうした数値はフォルヴィアの監査役による限定的な評価の対象ではありません。フォルヴィア・ヘラーは引き続き上場企業です。フォルヴィア・ヘラーについての詳細は、www.hella.comをご参照ください。本文書は、フォルヴィアの有価証券の売却または購入申込みの勧誘として見なされるものではなく、またそのように解釈されるべきものでもありません。

本文中で使用されている用語の定義

売上高の変動

フォルヴィアでは、前年比の売上高の変化は、次の3つの要素で構成されます。

- 前年度の売上高にその期間の平均為替レートを適用して算出された「為替差損益」
- 「連結範囲の変更による影響」（買収・売却）
- 「為替変動の影響を除いた成長」

フォルヴィアは、年間ベースの売上高が2億5,000万ユーロを上回る企業の買収および売却をすべて「連結範囲の変更による影響」として開示しています。

この基準値を下回る買収については「ボルトオン買収」と見なされ、「為替変動の影響を除いた成長」に含まれます。

営業利益

営業利益は、フォルシアグループの主要業績評価指標です。これは、以下を反映する前の、完全連結会社の純利益に相当します。

- 企業結合で取得した無形資産の償却費
- 重要で特別かつ経常外の項目に対応する、その他の経常外営業利益および費用。これには、組織再編費用や早期退職費用のほか、事業の中止、工業用地の閉鎖または売却、営業外建物の処分等の例外的な事象の影響、有形固定資産または無形資産について計上された減損損失、およびその他の重要かつ特別な損失が含まれます。
- ローン、現金投資、および市場性のある有価証券からの収入、および金融費用
- その他の金融収益および費用。これには、年金給付債務の割引による影響や関連制度資産からのリターン、金利・為替ヘッジの無効部分、IFRS第9号に基づいて明示できない関係性のなかで定められた基準をヘッジ関係が満たさない金利や為替商品の価値変動、および子会社株式の売却による損益が含まれます。
- 税金

調整後EBITDA

ESMA（欧州証券市場監督局）の規制を順守し、2022年1月1日以降「調整後EBITDA」を用いています。

ネットキャッシュフロー

ネットキャッシュフローの定義は次のとおりです：営業活動および投資活動による（またはこれらに使用した）キャッシュフローから、資本持分および事業の買収・処分（現金および現金同等物を控除）、金融資産の処分によるその他の変動と収入、新規または延長されたリースによる影響を差し引いたもの。IFRS第16号の債務の返済は含まれません。

純金融債務

純金融債務は次のように定義されます。総金融債務から現金および現金同等物、非流動資産および流動資産に分類されるデリバティブを差し引いたもの。これにはリース負債（IFRS第16号の債務）が含まれます。

Press

Christophe MALBRANQUE

Group Influence Director
+33 (0) 6 21 96 23 53
christophe.malbranque@forvia.com

Audrey ÉPÈCHE

Head of Media Relations
+33 (0) 6 15 98 23 53
audrey.epeche@forvia.com

Press (Japan)

坂井木綿子

080 1003 3839
yuko.sakai@forvia.com

篠塚郁恵

080 6676 7459
ikue.shinozuka@forvia.com

グローバル自動車技術サプライヤーであるフォルヴィアは、フォルシアとヘラーの技術および生産上の強みを補完し合うことで構成されています。世界40カ国以上に15,000人以上のエンジニアを含む15万人の従業員を擁するフォルヴィアは、現在および将来の自動車産業の課題に対して独自の包括的なアプローチを提供しています。6つのビジネスグループと13,000件以上の特許を有する強力なIPポートフォリオで構成され、世界のカーメーカー各社からイノベーションおよび統合のパートナーとして選ばれることに注力しています。2024年度のグループ連結売上高は270億ユーロでした。フォルヴィアは、ユーロネクスト・パリ市場にFRVIAのノーモニックコードで上場しており、CAC SBT 1.5°インデックスの構成銘柄に名を連ねています。フォルヴィアは、モビリティの変革を予見し、実現することを約束するチェンジメーカーとなることをめざしています。www.forvia.com

FORVIA
Inspiring mobility